

はちみつ蔵

—ミツバチ生産物の博物館—

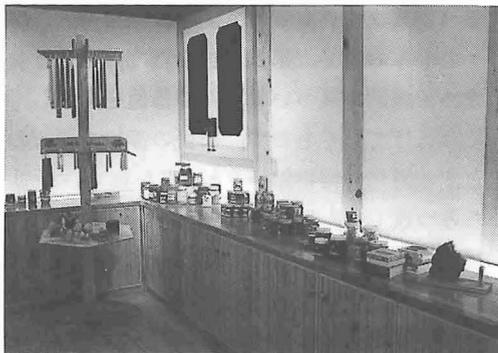
山崎 昭二

40年にわたる趣味養蜂の経験をふまえて、ミツバチの生産物および養蜂に関する知識の普及を目指して「はちみつ蔵」開設した。建物は、自然素材を多用し、柱、梁も大きな材料を使用するよう努めた。

I 施設、展示物、掲示物の概要

1 1階展示室 (図1左上)

- 広さ 20 畳相当, 展示棚幅 60cm 延長 20m
- 世界のハチミツ 8 か国 12 種類 (収集中)
 - 日本のハチミツ 18 種類 (収集中)
 - ロイヤルゼリー, 蜂ろう, プロポリスとそれらの製品
 - 食卓の小物 ハニーピッチャー, ハニーポット



- アジア養蜂研究協会・国際養蜂会議に関わるポスター, パンフレット, 記念切手写真等
- 一枚用観察巣箱
- 全面蓋蜜の巣枠, 空巢脾枠 (重量比較用)
- 採蜜, 採乳の手順を示すスチール写真
- 二段巣箱
- 基本的蜂具, 燻煙器, 離蜜機, ツール等

2 2階AV室兼ギャラリー (図1左下)

広さ 25 畳相当, 展示棚幅 60cm, 長さ 4m
ビデオテープ, スライド, プロジェクター, スクリーン

3 1階吹き抜けラウンジ (図1右)

広さ 20 畳相当, 受付カウンター, 商品棚, 薪ストーブ, ハチミツ味見コーナー

II 公開4か月の歩みから

1 巣箱の中を見せる

巣箱の中を見てもらった。皆さんミツバチの数の多いのに驚く。至近距離で幼虫, 蛹, 蜜や花粉の入った巣房, 蓋蜜, 王台の跡などを説明する。女王蜂が見つかったところでその枠を取り上げて観察巣箱に入れる。初めて巣箱の中を見ることができたという感動がカメラのシャッターの矢継ぎ早の音に象徴されていたように思



図1 左上 1階展示室, 左下 2階AV室兼ギャラリー, 右 1階吹き抜けラウンジ

う。

2 ローヤルゼリー

空き巣脾枠を持って働蜂房，雄蜂房，王台を教える。働蜂房と王台に産みつけられる卵は両方とも雌である。しかし，羽化するのに女王蜂は16日，働き蜂は21日かかること，女王蜂の寿命は平均4年くらい，働き蜂は30日くらい，長くても半年。その差は食べる餌の違いによるという。「その特別食はローヤルゼリー」という人もいる。「ああ，それがローヤルゼリーか」と，大変感動的な表情になる人もいる。ローヤルゼリーを人為的に生産するときに使う細い移虫針やへらを見せる。「ローヤルゼリーってのは高い訳だ」と口に出す方もいる。

3 全面蓋蜜の巣枠の重さを体験させる

全面蓋蜜の枠(3.3 kg)を両手で持ち上げさせてもらう。小さい子供ではなかなか持ち上がらないくらいだ。次に空き巣枠を持ってもらう。飛び上がらんばかりになって周りの人たちが爆笑する。こんな体験をすると他の展示物，掲示物を見る目に真剣さが増す。実際に体験してもらうことの重要性をあらためて認識させられた。

4 どうしてアカシア蜜といえるのか

標記の質問は多かった。日本の養蜂家は，アカシアの開花の前にたまっている百花蜜を採ってしまう。アカシアの満開を待ってその蜜を採ること，花の大群落の時は大部分がその花の蜜である。だからアカシアの蜜といえると答えることにした。そのときフリッシュ博士の“ミツ

バチのことは”についてつけ加える。尻振りダンスや8の字ダンスの写真を見て「中学生の時に教科書で習った」という若い人が大勢いたのには驚いた。

5 ハチミツの賞味期限は

標記の質問も多かった。「3300年」と答えると見学者は一斉に大笑いになった。そこで渡辺考先生の「ハチミツ百科」(p.23)にあるピラミッド発掘にまつわるエピソードを紹介した。ほんの8行ほどだから大勢の時は読んで聞かせ，少人数の時はそのページを見せて各自に読んでいただいた。賞味期限は長いものだということがわかってもらえたと思う。

6 味見コーナー

味見をしてもらった。ソバやカラスザンショウを是非分けて欲しいという人が少なからず現れた。日本人の舌に合わないと感じ込んでいた固定観念を吹き払う必要があるのではないか。

III 将来に向けて

博物館のあり方は，保存を中心とする第1世代から，展示・公開を中心とする第2世代へと変化し，1980年代後半から市民の参加を志向する第3世代へと変わってきているといわれる(岩波ブックレット「開け博物館」)。

この本の中で，第3世代の博物館は「社会が求める課題に基づいて資料の価値を発見し，つくりあげていくもので，市民の参加を運営の軸とする将来の博物館…」と，書かれている。「はちみつ蔵」も，保存，公開から一歩進めて「市民」を「養蜂関係者」と読みかえて将来の博物館像を追い求めていきたいと考えている。

養蜂関係者の参加を運営の軸としていくために数々の催事を計画した。

1 各地の品評会の入賞作の陳列

各地で開かれるハチミツの品評会の入賞作に主催，開催地，受賞名，出品者名を表示して展示(1年を限度とする)即売する。価格は，出品者が決める。(運賃を含めて)販売できたものの代金は直ちに送金する。売れ残ったものは「蔵」で買い取るか，運賃は蔵負担で返送。

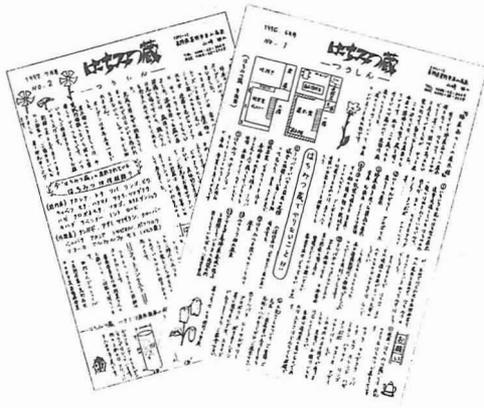


図2 はちみつ蔵つうしん



図3 ろう細工集合



図4 はちみつ蔵全景

2 ハチミツを使った料理教室・ケーキ作り教室

主催は希望する方ならどなたでも、またははちみつ蔵講師養蜂関係者で希望する方

1泊2日くらい

3 みつろう(蜂ろう)細工教室(図3)

養蜂関係者対象 時期は蜂閑期(新造語)

期間 1泊2日くらい

子供対象 夏休み中の宿泊者のうち希望者

講師 養蜂関係者の中から選ぶ

4 養蜂講座(学科の部, 実技は改めて考える)

講師 大学・研究機関・養蜂者の中から

期間 1泊2日くらい

対象 現在の仕事を退職する予定でこれから趣味のひとつとして始めたい方, 趣味として始めたい方, ハウス園芸を営んでいてハウス用に自分で飼ってみたい人, または学校のクラブに取り入れたいという教師

5 養蜂関係者のサロンとして

養蜂組合の機関の中での顔合わせは, 定期的に行えるが, 隣接地区でも他地区との交流は難しい。他県, 他地区の有志と会って話す機会を持つ場として利用してもらおう。冬の期間は, スキーを楽しみながらの交流もできる。若い養蜂2代目を育てるのによいチャンスとなるかもしれない。

時期 2月の蜂閑期

期間 3泊4日くらい

6 フォトコンテスト

テーマ「ミツバチと花と人」(詳細未定)

はちみつ蔵データ

〒391-03

長野県茅野市車山高原

電話 0266-68-2444, FAX 0266-68-2908

開館期間 5/1~10/31

開館時間 10:00-15:00

休館日 月曜・火曜(当日が祝日の場合は開館)

*夏休み中7/20~8/21は無休

場所 車山高原スキー場第4駐車場北側

交通 中央自動車道諏訪ICからビーナスラインで40分または中央東線茅野駅から路線バスで60分, 車山高原下車

*「はちみつ蔵」は, ペンション「ぎんのさじ」に併設されており, 22名まで宿泊可。冬は車山スキー場から約400mで, バスの無料送迎もある。

YAMAZAKI, SHOUJI. House of Honey "Hachimitsu-gura", a museum of hive products. *Honeybee Science* (1997) 18 (4): 185-187. Kurumayama-Kogen, Chino-shi, Nagano Prefect., 391-03 Japan.

The author has opened a museum of hive products and named "Hachimitu-gura (House of Honey)", a multi purpose museum of hive products. It consists of a display room for honey and other hive products, a multi purpose gallery, and a lounge. Some short term courses for cooking with honey, honey cake baking, beeswax crafts, beekeeping for retirees, etc.

The museum is open on Wednesday to Sunday and holidays from May 1 to October 31 (no closing days between July 20 to Aug. 21). Open hour is 1000 to 1500 hrs. Contact address: Hachimitu-gura, Kurumayama-Kogen, Chino-shi, Nagano Prefect., 391-03 Japan. Tel: +81-266-68-2444, Fax: +81-266-68-2908